

準優勝

双開一結 ~双方に開き一つに結ぶ住まい~

富山県 | 富山県立高岡工芸高等学校 選手…3年生3名



コンセプト
温泉・トロッコ車・スキーリゾートなどがある自然豊かな温泉地、宇奈月に住む。住まいは観光客と街に住む人々との新たなつながりの方を生む長屋。
二方向に開き、駅前通りは街に住む人々に開かれる。
二種類の人たちを結ぶ、「つなげる縁側」で長屋の住人。

対象敷地
山ぐちに囲まれた宇奈月温泉郷に隣り立つ。自然豊かな温泉街が広がっている。敷地は駅前の古土蔵通りに面している。駅前通りは観光客で賑わっている。反対側は街に住む人々の日常生活がされている。しかし近年は温泉宿やお土産屋、食事処が並んでいる。観光客は温泉宿で温泉から食事を完結させてしまい、街に繋り出す機会は少ない。

宇奈月の歴史
宇奈月温泉郷は、元々松の木が自生するだけの荒れた原っぱだった。温泉が湧き出ていることがわかり、そこには温泉地が作られた。さくらんぼやコ電線の開業開始によって多くの観光客が来り、観光地として発展していった。今では日本一の温泉宿を数える温泉地となっている。

立面・断面図

家族構成
お父さん (35歳)
お母さん (32歳)
姉妹
子供 (2人の双子)
小学生

面積表
敷地面積: 172.5m²
建物面積: 147.0m²
延床面積: 130.0m²
1.5階吹抜: 20.0m²
2階吹抜: 33.0m²
延べ床面積: 250.788m²

お母さんの薬膳料理
地域の資源の活用による地域活性化の一環として、お母さんの薬膳料理を提供する。お母さんは豊かな体験と知識を持っています。地域の資源を活用して、地域の文化や伝統を守りながら、地域の資源を活用して、地域の文化や伝統を守ります。お母さんは豊かな体験と知識を持っています。地域の資源を活用して、地域の文化や伝統を守ります。

お父さんの薬屋
薬屋で地域に貢献するお父さんは、街で多くの人々と交流する場所です。お父さんは豊かな体験と知識を持っています。地域の資源を活用して、地域の文化や伝統を守ります。

2.5階平面図 1:100
2階吹抜: 33.0m²

1.5階・2階平面図 1:100
子供部屋
洗面室
洋室
1階平面図 1:100

敷地設定や周辺環境の調査、地域の文化的背景の読み解きがしっかりと行われており、提案内容に的確に反映されている点が印象的です。「地域を開く」というテーマに対し、住まいと地域、住まいと観光客、そして観光客と地域という異なる立場の人々を繋げることを主題にし、それを一つの「縁側」で結びつけるというアイディアは興味深いものでした。縁側という伝統的な空間を活用し、現代のライフスタイルにおいてどのように機能するのかを模索しており、今回のテーマに沿った挑戦的な提案だと感じました。

設定された敷地の駅前通りに面する表側を観光客との接点を持つ場として、裏側を地域住民の日常的な生活と繋がる場として機能するという設計がされています。敷地の高低差を活かし立体的に縁側を配置することで、単なる機能的な繋ぎではなくゆるやかで自然な繋ぎ方を生み出している点が秀逸です。住む人も、訪れる観光客も、ここで新しい発見や出会いを期待できるような空間が演出されており、地域コミュニティの新しい形を提示しています。

「地域と繋げる要素」として提案されたお父さんの薬屋と、「観光客と

繋げる要素」として提案されたお母さんの薬膳料理を提供するダイニングのアイディアも魅力的です。一見すると異なる要素ですが、「富山の薬」というテーマを通じて統一感が与えられています。このような地域資源の活用手法が住まいの価値を地域全体に拡張し、コミュニティの活性化にも寄与する設計となっています。また温泉地ならではの足湯も、癒しの場を提供するだけでなく、地域の観光資源を活かした「地域に開く住まい」の象徴的な存在として機能しています。

欲を言えば、建物全体の外観にもう少し地域の魅力や繋がりの楽しさ、縁側の持つ日本の要素を反映させることができれば、さらに魅力的な提案となったのではないかと感じます。

昭和的な要素を、現代の視点で再定義し、「まちに住む」という新しい価値観を提示している点がこの提案の大きな魅力です。縁側や地域資源を巧みに活用することで、地域コミュニティの新しいあり方を示しています。まちに住むことの喜びや豊かさを実感させるとても素晴らしい提案でした。準優勝、おめでとうございます。

(吉田)